

# 百年大計

La Terrasse 代表 飯田美樹  
2021年3月14日

真使命

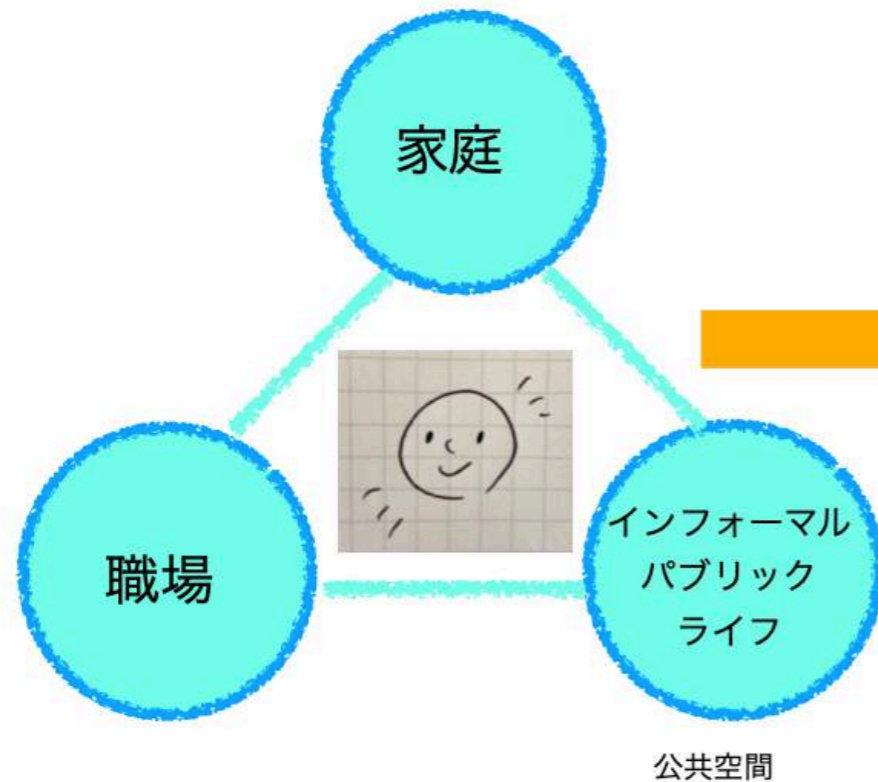
知の還元

# 原点

- 辛かったニュータウンでの専業主婦時代
- 「お前は主婦だから」「母だから」これさえあればいいという、画一的で人を馬鹿にした街のデザイン
- アメリカ郊外の専業主婦も同じ孤独を抱えていたと知った
- インフォーマル・パブリック・ライフ 自宅や職場の外で気軽に人と出会え、話せる場所の欠如

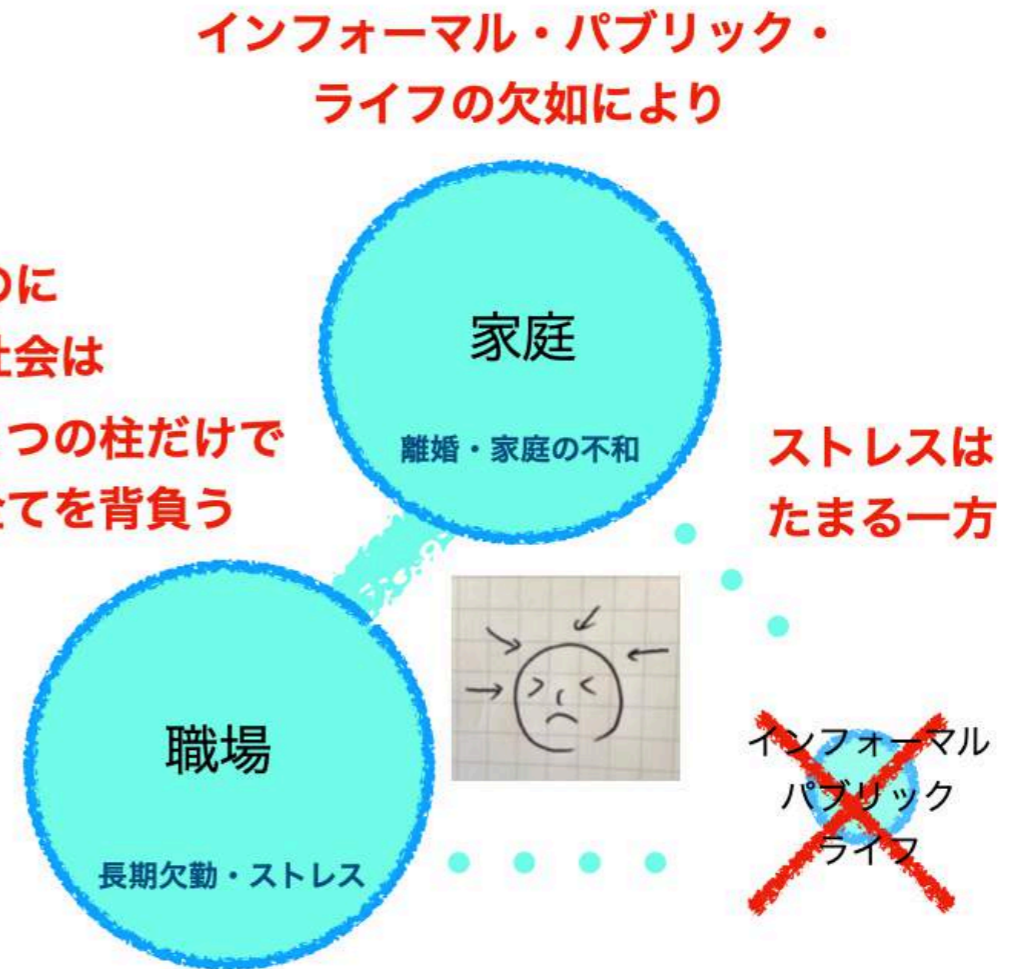
# インフォーマル・パブリック・ライフ

人はもともと3つの柱で  
精神的なバランスをとっていた



それなのに  
アメリカ社会は

2つの柱だけで  
全てを背負う



ヨーロッパの都市部は今でも  
インフォーマル・パブリック・ライフが充実  
特にサードプレイスのお手本はパリのカフェ！

サードプレイスはここ！



★ インフォーマル・パブリック・ライフとは

→老若男女が気軽に行けて気分転換のできる場、そこで過ごす時間  
(広場、公園、川岸、海辺、市場、商店街など)

★ サードプレイスとは

インフォーマル・パブリック・ライフの中核となる場  
知人や友人たちと気軽に出会って話ができる、つながりが生まれる  
(カフェ、パブ、ドイツのビアガーデンなど)

そんな時  
フランスに行き  
生きいきとした世界に  
目を奪われた

**BUFFETS CHAUDS &**

**BRASSERIE**

TEA  
**RUE  
LEPIC**



人生が  
真っ暗だったから

一筋の光が  
あまりにも眩しく  
輝いていた

“SOYEZ VOUS-MÊME.”

— *cécile*



自分らしく  
自由に  
楽しそうに  
生きる人たち

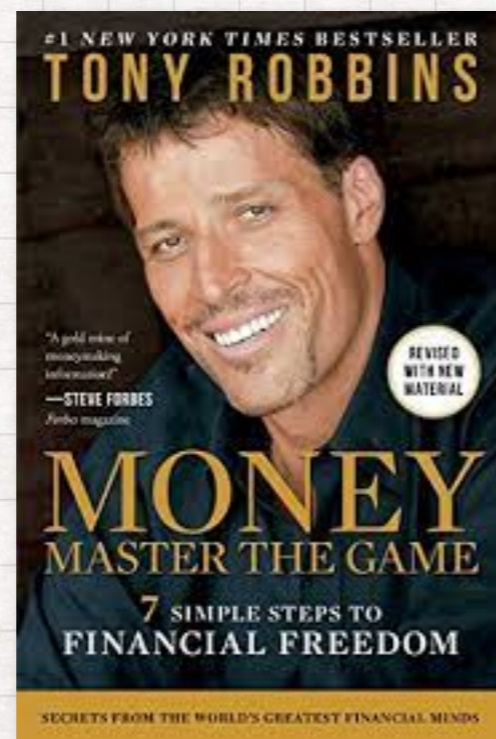
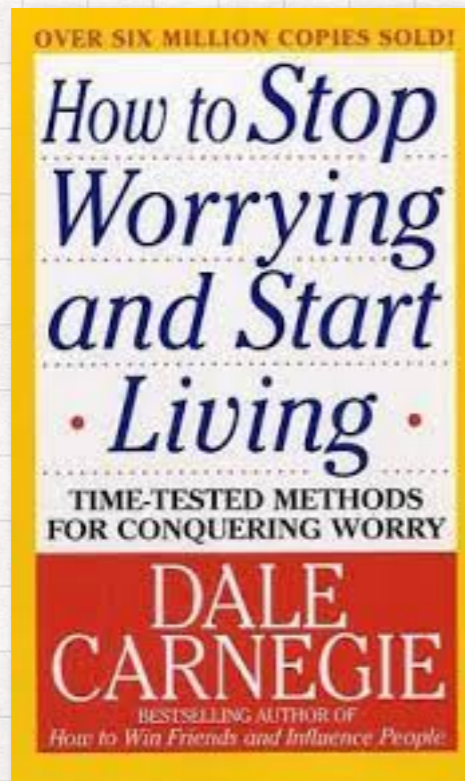
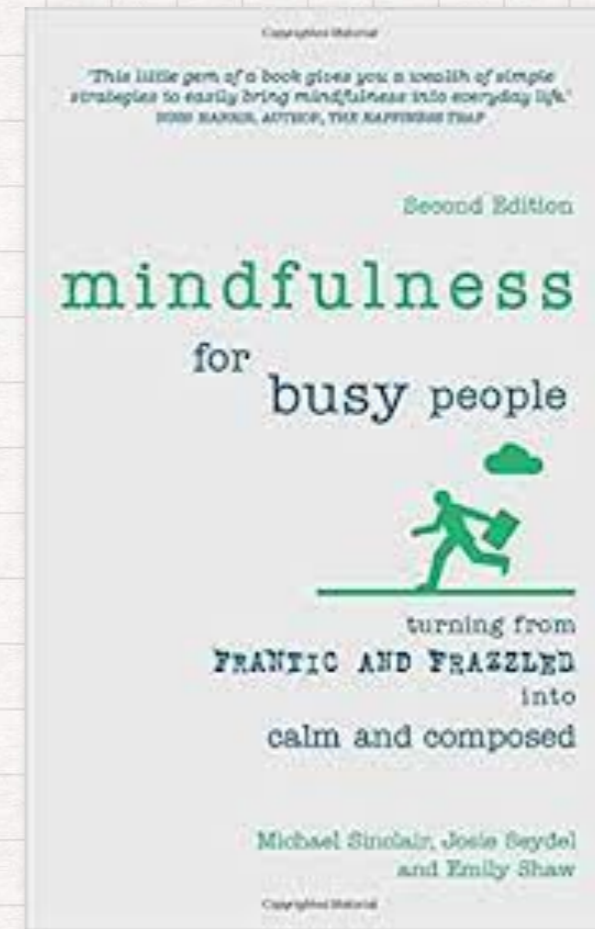
**“ UN AUTRE MONDE  
EST POSSIBLE...” “**

海外で書かれた  
本たちが

いつも私の救いだった。

人生諦めが肝心  
沈黙は金

それとも  
諦めたら試合終了？



- ・ 困っているのは世界にたった一人ではない
- ・ 現状を変える方法はある
- ・ それが自分の手元に届いていないだけ

閉塞感を感じている人たちに

目の前の世界だけが

答えの全てではないと伝えたい

CAPÉ DE ROSTAND

CAFÉ

# LA TERRASSE





# LA TERRASSE



LA TERRASSE

経営理念

もっと広く  
自由な世界へ  
ナビゲート

LA TERRASSE

コアバリュー

カフェ

パブリック・ライフ

世界の知

本物志向

感動体験

語学力

# LA TERRASSE

## 行動指針

パートナーに対して

- 大切な人として接する
- 新しい価値を共に築く

# LA TERRASSE

## 行動指針

お客様に対して

- ・ 大切な人として接する
- ・ 目を輝かせ、笑顔にする
- ・ 人生が変わったと言われる

# LA TERRASSE

## 行動指針

### 商品に対して

- 人生が変わるほどの出会い
- つい人に勧めたくなるほど  
質が高く、中身の濃いもの

LA TERRASSE

行動指針

社会

ひとつの価値観に縛られず  
誰もが自分らしく生きられる社会

LA TERRASSE

行動指針

利益

集客にとらわれず  
事業内容の向上に専念できる利益



# 100年後の未来

- 100年後にも外国で読み継がれる本
- 世界の誰もがオープンカフェで豊かな  
時を過ごせる
- 世界の郊外がもっと住みやすい状態に
- 歩行者中心、ウォーカブル
- よい街が生活圏に普通に存在する
- 自由に意見を言うことが当然



# 10年以上の長期構想

- ・ サードプレイス、オープンカフェを増やす
- ・ 日本でも人が自由に発言でき、自分らしく振る舞える場を増やす
- ・ 郊外、地方都市の活性化
- ・ 原著での読解や英文記事の読解をもっと当たり前



area  
pedonale



eccetto



OLIVINO

BAR

2028-8 LV402

P  
P  
N  
191

LA  
B

Pasticceria

ANCE

IA  
CIPALE

# LA TERRASSE

## ビジネスコンセプト

- サードプレイスやインフォーマル・パブリック・ライフを日常に
- 世界の知に自力で到達できる人を育てる
- 世界の知の還元
- 美しい文化、本物に出会う感動体験

## 誰にむけて？

- ひとつの狭い価値観を押し付けられて苦しんでいる人
- まちに賑わいを取り戻したい人
- 知的なもの、文化的なものが好きな人
- カフェという場に可能性を感じている人

# 何を？コアコンセプト

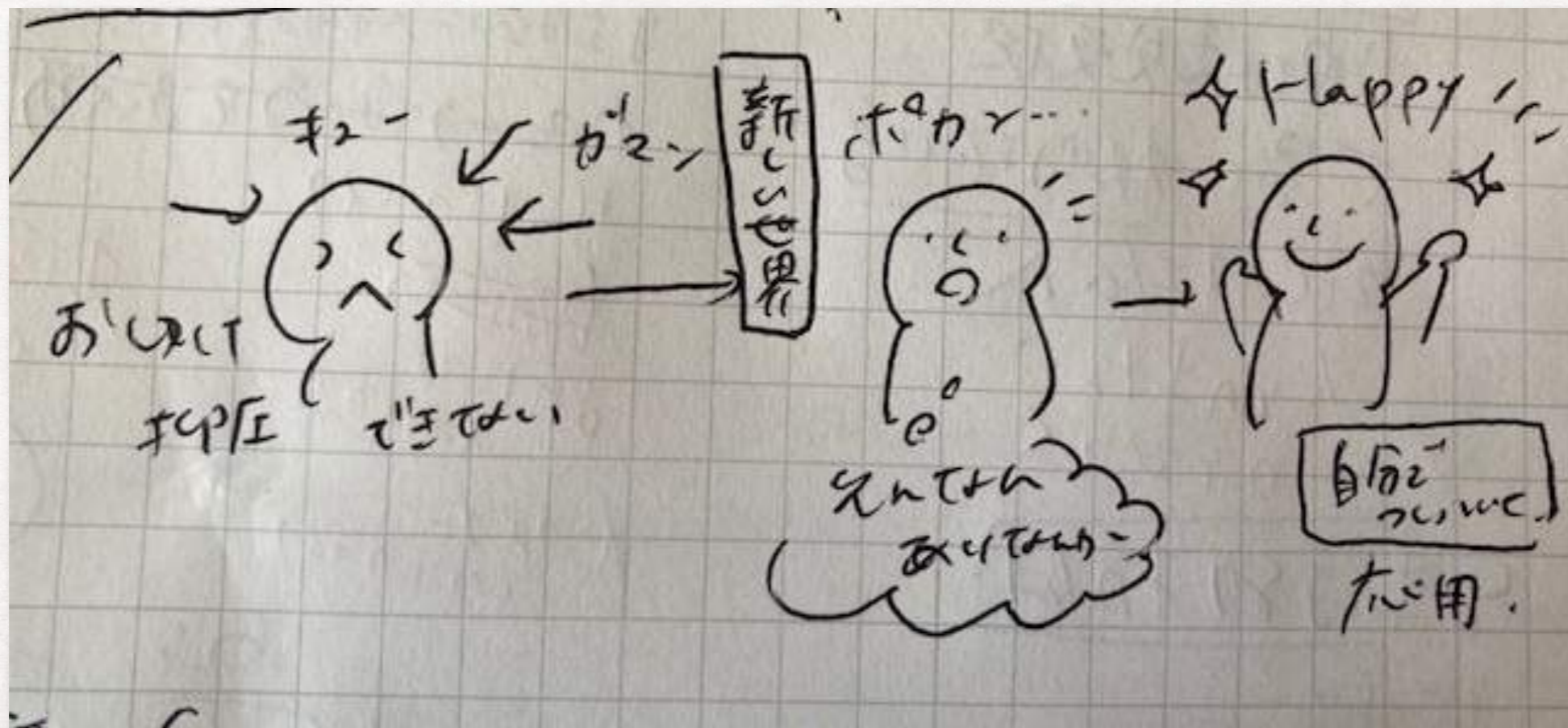
- 自分らしく生きるための知
- その知に到達する手段（語学・ツアー）
- その知に出会えるカフェ的な場
- 街の拠点として機能するカフェづくり

# LA TERRASSEの目指す姿

もっと広い世界がある  
答えは他にもある

出る杭は打たれる  
ひとつの答えしかない  
正解は自分を諦めること  
でもそれは精神的な死

でも誰かがナビゲートしないと  
一人でたどり着くのは難しい





# LA TERRASSE

## USP

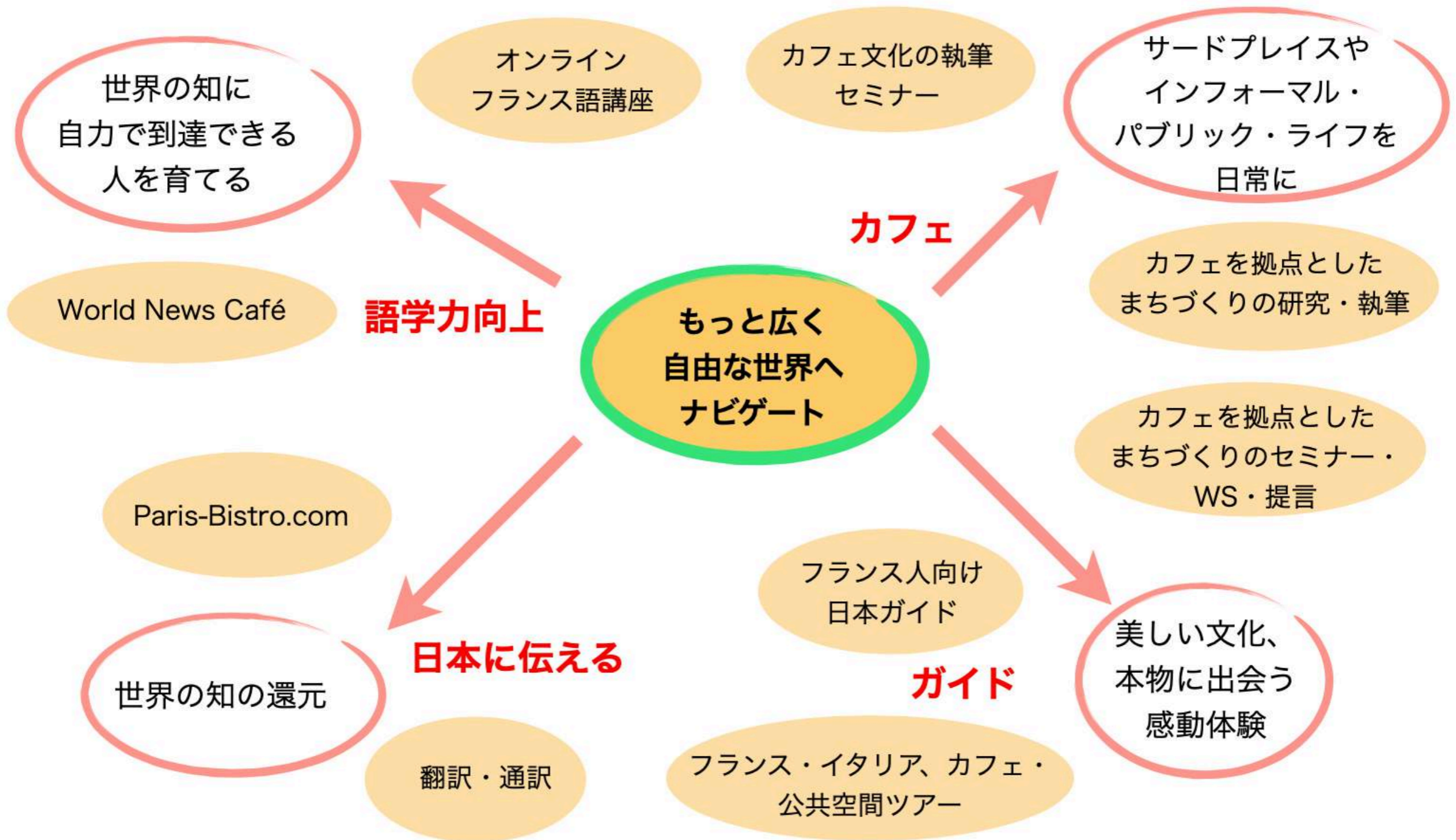
- 英語とフランス語を活かした世界の知見、最先端の情報へのアクセス
- わからない人の視点に立った教え方
- カフェ文化の研究&場づくりの実践者による場のデザイン
- パブリックライフ活性化のルールの研究・適用

LA TERRASSE

事業内容

# ビジネスモデル

# LA TERRASSE



世界の知に  
自力で到達できる人を  
育てる

# WORLD NEWS CAFÉ



人生が変わり始める英文読会  
昨年から90回以上開催



# WORLD NEWS CAFÉ

- 世界に対する知識、英語力、コミュニティ
- のべ参加者**400**人以上
- 北海道、東北、北陸、首都圏、関西、中国地方、四国、九州、沖縄、ミャンマー、フィリピンからも参加
- 大統領選や政治、日本はこれでいいのか？まで語れるコミュニティ
- もうすぐ**100**回記念パーティ



# フランス語講座

- ・ 8年間教えてきたフランス語
- ・ レッスンしながらフランスに行った気分になれる
- ・ 新聞やレシピ、アートの雑誌などを読み解く  
→ 文化的な知識も身につく



Dans son atelier de Giverny, Monet travaille à d'immenses toiles. Que représentent-elles? Un étang, un jardin, des saules pleureurs? Quel est donc le secret de son inspiration? Serait-ce le magnifique jardin qui entoure sa maison? Le peintre s'y promène en rêvant aux couleurs des fleurs à venir...

Monet se souvient aussi du temps jadis. Il entend encore les rires des enfants jouant à cache-cache dans les massifs de fleurs ou courant dans les allées de capucines.

Et pourquoi ne pas faire une partie de pêche? Tous en barque! Qui sera le premier à la rivière?



Germaine, Suzanne, Blanche

Aujourd'hui, Claude Monet attend ses invités pour le déjeuner. Marguerite, la cuisinière, dresse la table dans la salle à manger jaune. Les plats mijotent dans le fourneau de la cuisine en faïence bleue. Monet est très gourmand. Il a choisi le menu: hors-d'œuvre au beurre normand, ris de veau aux épinards et tarte aux pommes comme dessert.

Après un joyeux repas, une promenade digestive s'impose dans le jardin. Qu'il fait bon vivre à la campagne..., «Je suis dans le ravissement. Giverny est un pays splendide pour moi», déclare le peintre.

🔍 **Quel endroit de la maison ou du jardin de Giverny préfères-tu?**



La cuisine



La salle à manger



Le jardin



Le pont



L'entrée de la maison



L'étang

サードプレイスや  
インフォーマル・  
パブリック・ライフを  
日常に



# カフェの社会的役割の啓蒙



- サードプレイスとしてのカフェ
- カフェは逸脱者たちの避難所
- そこからイノベーションが生まれ、天才が生まれる
- 適応しきれない者にとっては生死をわけるほど重要



クルミド出版

KURUMED PUBLISHING

# カフェの社会的役割



飯田美樹著  
『カフェから時代は創られる』

フランス革命はカフェから始まったと言われ、20世紀初頭には様々な芸術運動の舞台となったパリのカフェ。本書は現地に留学しその魅力の虜となった著者が、なぜカフェがかくも豊かなムーブメントを生み出す場となりえたのかを解き明かした本の新装版。  
ピカソやモディリアーニ、藤田嗣治、サルトル、ポーヴォワールなど、後世に名を轟かす芸術や文学の天才たちが集っていたのが、ロンドン、カフェ・ド・フロール、ドゥ・マゴといった今でも存在する有名カフェ。それらを拠点に多彩な交流が繰り広げられ、切磋琢磨の中から時代を革新する新しい動きが起こつ

## 魅力的な場と「接触」の大切さ

書店の経営者として一番感銘を覚えたのは、そうしたカフェオーナーの振る舞いだ。彼らは一風変わった芸術家達も温かく受け入れ、時には金を貸したりするなど支援を惜しまなかったが、決して芸術や文学に造詣が深かったわけではない。居心地のいい雰囲気を作ることに心血を注ぎ、長期的な利益を得ることを目指していただけという。  
コロナ禍で「非接触」が叫ばれる現在だが、人と人との生身の交流の中からこそ予期せぬ創造的なものが生まれてくること、それを可能とする魅力的な場の重要性を再認識させられた。  
(クルミド出版・1980)



大井実さん  
(福岡市)

ブックスキュープリック

カリスマ書店員の



## 孤独抱える若者たちの避難所



「パリのカフェの歴史をひもとくことは、フランスの近代芸術・文化史をたどること」ほぼ同意語のようである。」  
二〇〇八年に刊行された名著が新装され、再び本屋に並ぶ日が訪れた。ピカソ、藤田嗣治、ブルドンら稀代の才能がパリに集い、多くの芸術家が名をあげた二十世紀初頭。本書は、カフェ文化、パブリック・ライフ研究家の著者が、彼、彼女らの自伝的証言をふんだんに引用しながら、天才たちの相互関係を追い、一つの時代が築き上げられる肥沃な土壌となった「カフェ」



恵文社  
一乗寺店  
鎌田裕樹

本屋と一冊

「カフェから時代は創られる」 飯田美樹 著 / クルミド出版 1980円

京都文芸同盟

という空間の引力を紐解く。本書における「天才」とは、完成された超人ではない。はじまりは誰もが才能の萌芽を抱えながら、あらゆる葛藤や孤独と直面していた。カフェは名も無き若者たちの避難所だったのだ。著者は、芸術論、文化論と距離を置き、一貫してカフェという場を橋渡しに天才たちの物語を追う。読み進めると、天才が天才たる理由を思い知ると同時に、当時のカフェに漂っていた熱を帯びた空気を体感するよう、彼らの存在が身近に浮かびあがる。  
集い、語り合う行為に、目に見えない制限が生じた二〇二〇年。在りし日のカフェで繰り広げられた光景が街から失われることで、社会から抜け落ちる美しさがどれだけあるだろう。芸術や表現に向き合い、孤独を往くつとつするひとにこそ手にとつて欲しい。いつか本書を携え、パリの路上へ繰り出し、その足跡を辿ってみよう。



# カフェの社会的役割



- ・ 東京、大阪、京都、オンライン等でほぼ毎月セミナー開催

- ・ 3月20日は紀伊國屋書店オンラインセミナー

- ・ 4月14日はピースボート



# パブリック・ライフ活性化の 7つのルールとオープンカフェ

- 賑わいを生み出すには法則がある
- 21世紀のまちづくりの鍵は  
インフォーマル・パブリック・ライフ
- 基礎がきちんと理解できれば応用できる
- 活性化の鍵となるのがオープンカフェ
- 2冊目の本を執筆中
- セミナー、ワークショップ開催
- 記事の執筆



世界の知の還元

# PARIS-BISTRO.COM



英文ニュースを読む会

パリのカフェを選ぶ ▾ フランス料理 ▾ フランスワイン ▾ ドリンク ▾ パリのカフェ文化 ▾ 日本で楽しむ

YOU ARE AT: Home » News » パリのビストロとカフェのテラスをユネスコの世界遺産に Bistrots et Terrasses de Paris UNESCO



## パリのビストロとカフェのテラスをユネスコの世界遺産に Bistrots et Terrasses de Paris UNESCO

BY MIKI IIDA ON 18 MARS 2019

NEWS, パリのカフェ文化, 食文化の今

パリの街並みからビストロとカフェのテラスを取ったら何が残るといえるだろうか？ビストロやカフェはパリに彩りを与え、パリの生活の楽しみを生み出す重要な存在である。とはいえ、ビストロやカフェのテラスはグローバリゼーションによる世界の均質化の波にさらされている。今日では世界のどこへいっても大都市の中心部は似たり寄ったりで、同じ看板、同じファーストフード店やチェーン店で溢れかえっている。パリは大都市にしてはこうした潮流から免れている方ではある。とはいえ、唯一無二で、正真正銘の昔ながらのパリのビストロやカフェのテラスは、放っておいたら消えてしまう運命なのだ。ビストロやカフェはパリの美しい街並みに欠かせないだけでなく、パリのエスプリの一部をなす存在である。というのも、両者は自由な場、議論の場、また文化的な場としての役割を担ってきたからである。ビストロやカフェは庶民的な味を守り続けるだけでなく、社会の中で人のつながりを育む場所なのだ。

パリのカフェを選ぶ



ARTICLES RÉCENTS

フランスのミシュラン・ガイドは？

フランス料理の巨匠 ピエール

モルドバ・ワイン・フェスティバル 10月3日夜

『カフェから時代は創られる』

そして誰もいなくなった パリ

- フランスの食文化の今を伝える [Paris-Bistro.com](http://Paris-Bistro.com)
- カフェやビストロだけでなく数多くのワイン産地も取材
- 生産者の生の声を伝える



美しい文化、  
本物に出会う  
感動体験





# LA TERRASSE

## 重要目標達成指標 KGI

### 2021年の売り上げ目標

World News Café→181万円

フランス語講座→50万円

セミナー、執筆→35万円

通訳等→58万円

合計 324万円

# LA TERRASSE

## 重要目標達成指標 KGI 2021年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
World News Café	43人	48人	52人	57人	63人	69人	76人	83人	92人
仏語	3人	4人		5人		6人			
セミナー 執筆	月1回以上	2ヶ月で3回		月2回程度					
通訳等	月1回以上				2ヶ月で3回		月2回		

# LA TERRASSE

## 重要業績評価指数 KPI

### 【World News Café】

- ・毎週末2～3回開催
- ・メルマガ週2回配信
- ・英語に関するブログ週1回
- ・英会話カフェ月2回
- ・基礎編、初心者向け 月2回

### 【翻訳、通訳】

- ・月1回～2回は翻訳、通訳業務を請け負う

### 【フランス語】

- ・フランス語、カフェ文化に関するセミナーを月1回は開催

### 【セミナー、執筆】

- ・カフェ文化、パブリックライフ関係のセミナーを月1回以上開催
- ・クラブハウス カフェトーク  
月2回開催
- ・2021年に2冊目を出版

まずは毎月1.1倍の  
成長を目指します。

# LA TERRASSE

## 諦めない理由

- 飯田家の祖父母
- 大阪の家には文化的な香りがあり、行くのが楽しみ
- お茶を囲んで知的な会話をする大人たち
- 小さい時は親族17人でよいホテルに泊まらせてもらい、本物のよさを子供ながらに味わった

# LA TERRASSE

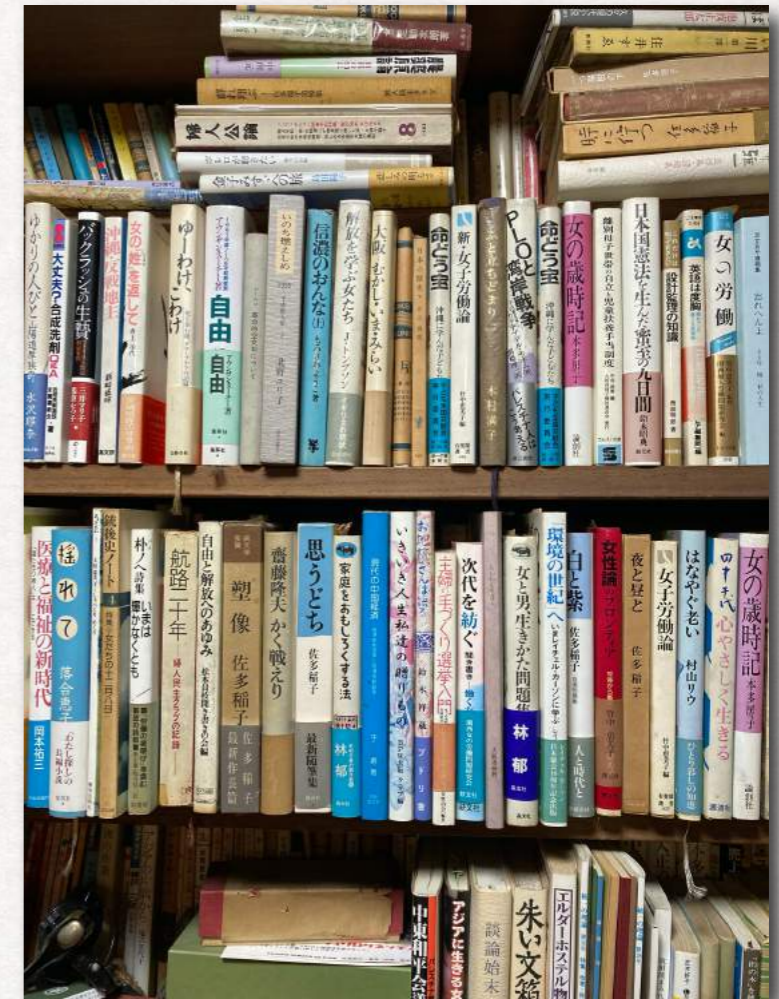
## 諦めない理由

祖父母は1938年という戦争直前に、  
あらゆる知識について  
広く語り合う会を設けていた。  
知識を象牙の塔から一般の人へ

また、祖父は共同設計という  
設計会社を設立、現在でも  
続いている

# LA TERRASSE

## 諦めない理由



祖母は女性の民主化運動に人生を捧げた  
大阪府初の女性市会議員



私も動かないと変わらない。

人がもっと自由に  
自分らしく  
生きられる社会を目指して。



その先の世界へ。

LA TERRASSE